

PREX NOW

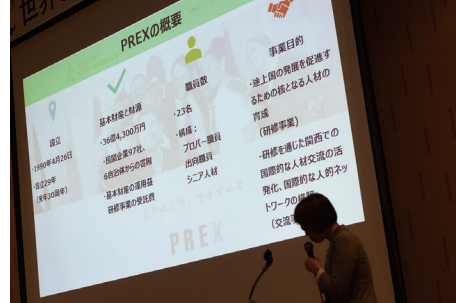


途上国と関西をつなぐ VOL.254

特集:PREXシンポジウム

未来を シェアしよう。



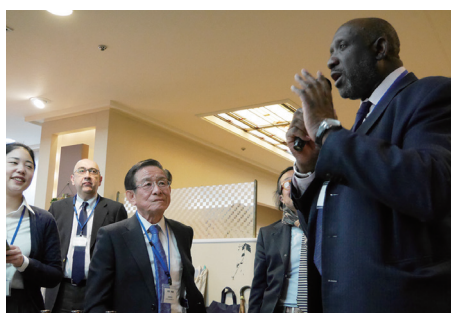


今年のテーマは 「世界とシェアする日本の未来」。

日本の未来を世界の国や人々とシェアするためには
 「摩擦とか衝突とかを恐れない」、そういう勇氣が必要です。
 同時に、ぶつっただけでは何も生まれないので、「辛抱・忍耐」が重要になります。
 その忍耐を続けるためには、相手との人間としての信頼関係、
 お互いのことを学ぶということも大事です。
 そういうことをひっくるめて世界中で人間同士が共感をしていくということが何より肝心で、
 私たちの取り組んでいる国際協力・援助、あるいは企業同士の関係、個人同士の協力、
 助け合いといったことも、人間同士の共感から始まっていくのではないかと思います。
 (パネルディスカッション コーディネーター 高橋 基樹 氏のコメントより)

PROGRAM

- 開会挨拶 会長 PREX 大坪 清
- 基調講演「グローバル化された世界の未来で、人間らしく生きること」
ウスビ サコ氏(京都精華大学 学長)
- PREX活動と海外研修員からのメッセージ紹介/国際交流部長 瀬戸口 恵美子
- パネルディスカッション
- コーディネーター 高橋 基樹氏(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究 研究科教授)
- パネリスト フェルダ グレゲン氏(UNIDO東京投資・技術移転促進事務所 次長)
高津 玉枝氏(株式会社福市 代表取締役)
西堀 耕太郎氏(株式会社日吉屋 代表取締役)
- 登壇者とシンポジウム参加者との交流会



PREXシンポジウム 2019.4.9

主催：太平洋人材交流センター

後援：近畿経済産業局、関西経済連合会、関西経済同友会、
関西生産性本部、大阪商工会議所、京都商工会議所、
神戸商工会議所、JICA関西、関西SDGsプラットフォーム、
UNIDO東京事務所

会場：大阪国際交流センターさくら



～今年もたくさんのご参加 ありがとうございました～

PREXでは、国際協力や人材育成をテーマに、
年1回シンポジウムを開催しております。
今年は、約120人の方にご来場いただきました。

PREXの研修には、太平洋周辺の地域だけではなく、
世界中の開発途上国から人々が参加しています。
研修の中で、さまざまな国の研修員と日本の関係者が境界を越えて、語り合い、
課題解決に向けて知恵を出し合う姿があります。
それぞれの研修には、その研修ごとに目標とするテーマがありますが、
PREXでは、研修を受けることが、研修員一人一人にとって、
壁や境界を乗り越えてよりよい社会の実現に向けて活躍するきっかけであってほしいと
考えています。
今回のシンポジウムでは、この「壁や境界を乗り越えること、シェア」を、テーマとしました。



来年は、PREX設立30周年。

PREXシンポジウムも、より多くの方にご参加いただけるよう企画していきます！
(PREX国際交流部 中谷 写真：右)

グローバル化された世界の 未来で、人間らしく生きること。

～多様な価値観を認めあえる
社会の実現にむけて～

ウスビ・サコ 氏
京都精華大学 学長

西アフリカのマリ共和国出身。高校卒業と同時に国の奨学金を得て改革開放時代の中国に留学。その後1991年に来日し、京都大学大学院で建築計画学を学ぶ。2001年京都精華大学人文学部教員に着任。2018年4月から現職。

グローバル化とは、大きなスケールの話ではない。

多様化する社会の中で「自分の姿勢を他者の姿勢とどう関連させ考えていくか」ということは非常に重要なポイントです。私が学んだことかというと、「他者と出会うことによって自分を発見する。あるいは他者を通して自分を見ていく」ということでした。「グローバル化」というと、私たちはかなり大きいスケールで考えますが、実際は、個々人の話で、個々人が自分の中に多様性を認めることによって社会全体が変わっていくのではないのでしょうか？

多様性や多様な文化をどう受容していくか？

私は、「日本人は協調性がないんじゃないか」って勝手に批判しているのですが、日本人は、「空気を読む」ことを大切にします。しかし、これは「逃げる」ことです。例えば、ぶつからずにちょっと距離を置くとか、相手のことを理解しないけど衝突をしないために受け入れる、こんなことは、多文化共生を迎えるこれからの社会の中で、通用しないですね。能動的に行動し、能動的に相手に関わり、相手とぶつかり合うことで新しいものが生まれる。ぶつかり合いがないところにはイノベーションはありません。必ずぶつかる。それは悪いことでは全くありません。

アフリカと日本

SDGsということでは、アフリカとどうかわっていくかということとは大きなポイントです。アフリカは1960年代に多くの国が独立していますが、民主主義との関係性等、さまざまな問題を抱えています。一方で、労働人口、天然資源が豊富にあります。このシンポジウムの「世界とシェアする日本の未来」というテーマについて、1955年のアジア・アフリカ会議に戻って考えたいです。アフリカ諸国とアジア諸国が集まったこのバンドン会議で、インドネシアのスカルノ大統領は「Let a new Asia and new Africa be born!」、新しいアフリカとアジアを実現させましょうよ、と呼びかけました。そして各国のリーダーが共同声明として「平和十原則」を発表して閉会しました。これは、社会の安定性に、重要なポイントになりました。

アフリカとアジア、日本は様々なことをすでに共有しています。その中でも、人の能力開発、都市や建物、経済、アフリカにとって役に立つことが多くあります。日本はグローバル社会の中で、リーダーとしてどう役に立っていくのか、日本の教育の強みを生かした人間育成は大きな可能性があるし、共同イノベーションを起こして、日本の経験を外に出していくのがよいと考えています。これからのグローバル社会の中で私たちに求められているのは、強い日本と強い世界、あるいは変わっていく日本と、変わっていくアフリカ、それらをどうやって繋げていくかということだと思います。

前半の基調講演に続く、パネルディスカッションでは、「日本は、SDGsが注目される今、どうすれば世界と未来をシェアできるか」をテーマに、パネリスト各氏から、技術移転、フェアトレード、伝統産業、教育等の視点から経験を紹介いただきました。そして、コーディネーターの高橋氏からの問いかけに対し、自分と社会を変えることの難しさや、個人・企業・社会、そして日本が、どう変わっていくのがよいのか等、未来に向けた意見が出されました。

世界で何が起きているのか？ 何を自分たちは考えているのかを もっと共有してほしい。

国連工業開発機関(UNIDO)の東京投資技術移転促進事務所次長フェルダ・ゲレゲン氏は、ESGやSDGsへの貢献を出発点においた企業活動の事例等をご紹介いただきました。「日本人はもう少し世界にオープンになることが大事だと思うんですよ。世界にオープンになって、まず世界でなにが起きているかフォローしなければいけないと思います」と会場に語りかけられました。

世界や未来のことを 自分のこととしてとらえることが大事 だと思います。

株式会社福市の代表でセレクトショップLove&senseを率いる新しい時代のフェアトレードのリーダー高津玉枝氏からは「世界のことも100年後のこともすべて私と繋がっている。日本には、歴史を見ても循環経済の知恵があって、それをシェアすることで世界に貢献できることがあるのではないかと、未来への思いをお話いただきました。

挑戦し続けたからこそ 伝統と呼ばれるまで 続いているのです。

和傘や和紙を使った照明等の作り手で、株式会社日吉屋5代目当主、西堀耕太郎氏からは、デジタル化するグローバル世界の中で、アナログ職人が提供できる価値について、TCI研究所というラボでさまざまな中小企業のアドバイスを手掛ける立場からもお話いただきました。「伝統は革新の連続。今までと違うことにチャレンジしないとイノベーションは生まれない」という信念と行動力に共感された方が大勢いらっしゃいました。



コーディネーター 高橋 基樹氏
(京都大学大学院)



フェルダ・ゲレゲン氏
(UNIDO東京投資・技術移転促進事務所 次長)



高津 玉枝氏
(株式会社福市 代表取締役)



西堀 耕太郎氏
(株式会社日吉屋 代表取締役)

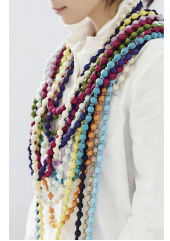


完璧ではなくても 走りながら 考える。

株式会社福市
代表取締役 高津 玉枝 氏

プロフィール:

大学卒業後、富士ゼロックス、雑貨商社を経て、91年に売り場のプロデュース会社を設立。フェアトレードの概念と出会い、06年に株式会社福市を設立。梅田の阪急百貨店10階にフェアトレードのセレクトショップ「Love&sense」を運営。「持続可能な社会のために行動する人を増やす」をミッションにフェアトレードの普及に取り組む。2011年には、東北支援プロジェクトEAST LOOPを創出。15年からは京都市イノベーションキュレーター塾の塾長を務める。国際NGOオックスファムジャパン、フェアトレードラベルジャパンの理事など歴任。



ベトナムの郊外の農村地域女性たちが作っているフェアトレード商品。ダボス会議（世界経済フォーラム）企業のセッションでプレゼントに配られた。

★ めざしていることは？

持続可能な社会に向けて行動する人を増やすことを目指しています。貧困は途上国の問題ではなく、世界の仕組みの問題です。日本で生活していると、貧困の現状についてリアルに知ることが難しいです。途上国支援というと、皆さん「寄付」を考えられます。それもととても大切な取り組みではありますが、それだけでは貧困問題は解決しません。フェアトレードの商品を販売し続けることで、継続的に支援していくこと、そして、そのアクションを通じて、日本の多くの人たちに途上国の現状（搾取・環境問題など）を伝えて気づいてもらうことを目指しています。すべての取り組みは未知のものです。「完ぺきではなくても走りながら考える」という言葉を大切にしています。

★ 今の時代をどう見えていますか？

ネットで簡単に世界の情報にアクセスできるようになりました。そしてそれで満足してしまっている人が多いような気がします。実際に現場に足を運ばなくては、何が本当のことなのか、どこに物事の本質があるのか見えてきません。自分たちが「見えていないこと」を意識することが大切ではないでしょうか？

★ 今、力をいれているお仕事は？

フェアトレードのセレクトショップLove&senseをもっと素敵なお店にしていきたいと思っています。フェアトレードというと、まだまだエスニック雑貨とか、ファスナーがすぐに壊れる粗悪品というイメージを持っている方も多いと思います。それをいい意味で裏切るようなお店にどんどん進化させていきたいと思っています。商品開発は簡単ではありません。先日新しい商品を作ったのですが、入荷後に思いがけない瑕疵が見つかってしまい、約半分の販売できなくなってしまいました。しかし、パートナーと会話を重ね、より良い商品を作っていくことで、途上国の生産者の力につながることをスタッフ全員が共有しているので、我慢強く改良を重ねています。ビジネスは簡単ではありませんが、より多くの人に伝えて行動してもらうことが私たちの使命だと思っています。また、SDGsへの関心が高まる中、一歩踏み出せない企業や、何をしたいのかわからない人がたくさんいます。そうした企業にフェアトレードのセレクトショップを0から立ち上げ、新しいマーケットを作り価値を想像し、継続的にやってきた経験をお伝えすることで、次の行動に踏み出してもらえるお手伝い（研修）などもスタートしました。

★ おすすめの映画

「ザ・トゥルー・コスト 〜ファストファッション 真の代償」という映画をご存知ですか？これは、主にファストファッションの裏側を描いた映画です。生産者が搾取されている現状、農業まみれになっているコットン現場、そして安さゆえに狂気のように買い物に走る人々たちを見事に描いています。そしてそれを見直していく糸口にも触れています。

一度、ご覧ください。

★ PREXシンポジウムを終えて…参加いただいた方とエシカル女子会を立ち上げたいですね。



いま伝統と 呼ばれるものも、 最初はベンチャーでした。

株式会社日吉屋
代表取締役 西堀 耕太郎 氏

プロフィール:

「伝統は革新の連続」を企業理念に、インターネット販売やメディアと連動した新しい京和傘のブランディングや、各分野のデザイナーやアーティストとのコラボレーションに取り組む。自らも伝統工芸の職人でありながら、その技術を活かした海外向け商品開発で成功し、世界15カ国に代理店網を構築。2012年、株式会社TCI研究所を設立し、のべ約400社の海外展開を支援。



★めざしていることは？

世界から注目されるブランドや新しい世界を見せるような日本企業をどんどん増やすことを目指しています。日本の製品で、世界の人の生活に潤いを与え、世界の人により時間、喜びを作っていきたいと考えています。

★どういうきっかけで今のお仕事をされているのですか？

日吉屋で和傘の伝統技術をいかした製品(照明器具)の海外展開を成功させました。西洋化が進み、マーケットの拡大が望めない和傘を売るためには、母数を広げるしかなく、海外に出たのは必然でした。ものづくり、販売、ブランディング、商品開発はデザイナー等の外部専門家の方々にも助けて頂きながら進めました。そのあと、中小企業庁の当時の幹部の方が日吉屋を訪問された際に、「日本の多くの中小企業が苦境に立っている。特別な1社が成功しただけではだめで、3,000社を成功させる普遍的な支援方法を考えてほしい」と言われたことがTCI研究所設立のきっかけです。

★今の時代をどう見えていますか？

インターネットやSNSなどで、人は世界に繋がっていて、あらゆるチャンスを持っています。どんなこともできる可能性のある時代です。しかし、実際に海外に行ってみると、国内で思われているほど世界の中で日本の存在感は感じられません。日本のブランドで世界の誰もが知っているような認知度が高いのは、一部の自動車ブランドぐらいではないでしょうか。日本には作り手はいるのですが、売れる形にするプロデューサーが少ないと感じています。求められているプロデューサーとは、作り手と世界のパートナーを繋ぎ、現地ニーズを反映させた商品開発、ブランディング、販売の多岐にわたる支援ができる人です。

★読者のみなさんへのメッセージ

今、中小企業の中には、海外に行ったことはないけれど、海外にむけて製品を売ろうとしている方がいます。まずは、世界の文化や商習慣、ニーズを知らないと、本当に売れる商品は作れません。自分は、約20年、日吉屋の仕事をきて、約15カ国以上にパートナーがいます。現地に、デザイナー、バイヤー等日本企業の商品開発にアイデアを出してくれるネットワークがあります。日吉屋が何をどのようにしたのかをオープンにし、その実体験に基づくメソッドや知見を元にした支援ができるプロデューサーを育てることで、日本企業のものづくりや海外展開に役に立てればと考えています。現地のバイヤーやデザイナー達と一緒に日本が生産地が物を作っていくと、生産者だけでは思いつかなかったアイデアがでて、現地で売れやすい商品ができます。そのためには良好な人間関係を作ることが何よりも大切で、飲み会等の非公式なふれあいも大切にしています。

★PREXシンポジウムを終えて…アフリカのお話を多く聞かせてもらいました！楽しかったです。

NEWS & TOPICS

今月号は、4月9日に開催された「PREXシンポジウム2019」を特集しました。
SDGsが注目される今、日本はどうすれば世界と未来をシェアできるかをテーマに
教育、技術移転、フェアトレード、伝統産業といった多彩な視点でパネリストをお招きし
有意義な意見を聞くことができました。シンポジウムに参加された方、今号をお読みに
なれた皆様のご意見ご感想もぜひお聞かせください。お待ちしております。
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

■アセアンの帰国研修員40名と再会！



2019年3月15日、シンガポールで開催された「関経連アセアン経営研修40周年記念レセプション」へ参加しました。インドネシアやベトナム、ラオス等々からも懐かしい研修員が集まってくれました。(PREX岡本、亀田)

■外国人社員の人材育成情報

★PREXベトナム人リーダー育成研修2019

日本企業で働くベトナム人社員が、現地拠点の運営管理や、現場のリーダーとしての役割を担えるよう、外国人の社員には理解しにくい日本企業の経営の根底にある考え方について学べる研修です。

対象：企業のベトナム拠点等の管理者、管理者候補のベトナム社員 使用言語：ベトナム語

日程：2019年9月3日～27日のうち10日間 会場：PREX会議室ほか

詳しくはPREXのホームページをご覧ください。問合せ先：小林、関野、瀬戸口 メール：seminar_vn2019@prex-hrd.or.jp

★国際交流基金 関西国際センターからのご案内 オンラインコースで日本語をいつでもどこでも学べます

「JFにほんごeラーニング みなと」は、地理的、時間的制約によって日本語教室に通うことができない学習者や、これから学習を始めたいという世界中の人々に日本語を学ぶ機会を提供するための日本語学習プラットフォームです。(自習コース無料) 対応7言語：英・日・スペイン・中・インドネシア・タイ・ベトナム

詳しくは <https://minato-jf.jp/> をご覧ください。問合せ先：TEL 072-490-2601 (教育事業チーム 山村氏)



■上本町SDGs大学開催！

上本町地域にSDGsを考え語り合う場を作りたい！と、クレオ大阪中央さんと共催で始めた「上本町SDGs大学」。3月7日の第1回「SDGs×働く」には36名の方が参加。中西金属工業(株)CSR統括部CSR室 室長 堂脇智子さん、(株)PRリンク 代表取締役 神崎英徳さんからの話題提供の後、全員でSDGsについての思いや経験について語り合いました。第2回は7月11日、その後も継続開催が決定しました。SDGsを考えたい、語りたいという皆さん、ぜひご参加ください。(PREX瀬戸口)



■4月から新メンバー！

PREXは、新たなメンバーを加えて、新年度をスタートしました！よろしくお祈りします！
左から前田、狭間、島田

■おススメ図書コーナー

シンポジウムのコーディネーターを務めていただいた京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究 研究科教授の高橋 基樹先生から、国際開発に関する本をご紹介します！PREX職員も、この本で勉強中です。

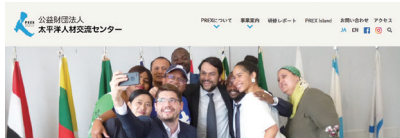
高橋先生からのメッセージ**

「国際開発学会では、『国際開発学事典』(丸善出版)を30周年記念事業として発刊しました。

定価は20,000円+税とかなり高額ですが、国際開発の研究と実践の最先端を知りたい方にとって最適の本となっていると自負しています！」



■ウェブサイトリニューアル・インスタも始めました！



世界は人で、できている



PREX NOW第254号(2019年6月発行)
編集・発行：公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事・事務局長：岡本 譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ホームページ：<http://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作：ユナイテッド・トゥモロー